

2023(令和5)年度 愛知大学大学院入学試験

(2022. 8月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 欧米文化専攻	
外国語	
科目名	日本語

(辞書の使用不可)

採点欄	
-----	--

[1] 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「付度」は二〇一七年の流行語大賞の有力候補だろう。

あまり馴染みのある言葉ではない。「思いやり」とか「配慮」というほうが一般的であり、例の事件があって初めて知ったという若者も少なくない。世代的に、これを使えるのはかなり上に限られそうだ。

なにより、字が難しい。「付」の漢字は、それだけで「推し量る」の意味を持つが、他の言葉で使われることがない。「度」は、「支度」のタクではあるけれど、訓(よ)みとしてあまり一般的ではない。そういう文字の組み合わせである。

他の人の、はっきりと言葉にされていない気持ちを推し量るのである。(ア)されていない他者の気持ちを想像する。

外国人記者クラブで森友学園理事長の籠池さんが会見したときに、「付度」を英語に訳そうとして、通訳の人が戸惑っていた。日本人記者たちは、①さもありませんという雰囲気、その光景を見ていた。

外国人には決して理解されない日本人独特の感性であると思う日本人が多いの②だろう。理解されないことがうれしいかのようでもある。私たちの仲間意識をくすぐられるの③かもしれない。日本人は特別であると思いたい気持ちを象徴するものとして、「付度」が見られるのではないだろうか。

しかし、付度が日本人独自であるということは全くない。英語に訳せないというわけでもない。理解されない事柄などでは全くない。一語で表すことは難しいかもしれない。しかし、適切な説明をすれば、十分に理解可能なことである。

人は何事であれその意思をすべてはっきりと言葉に表すわけではない。特に上位者と下位者の場合、下位の者は、上位の者がなにも言わないうちに、その意思を汲み取って、先回りして実行することが奨励される。うまくいけば、出世が約束される。そういう人を、気が利くという。気が利くことは、世界共通に喜ばれることであり、仕事のできる人間として④重宝される。

交渉事は単純ではない。言葉にされないことも考慮される。(イ)の探り合いである。いろいろ想像力をめぐらせて、⑤しかるべき答えを探し出さなければならない。

最近、言葉の使い方が粗っぽくなってきている。粗雑である。特に政治家に、その傾向が著しい。複雑な事柄を、ひとくくりにして、ごく単純な言葉に押し込めてしまおうとする。難しいことを一般受けする易(やさ)しい言葉で表現するあまりに、深刻な事態が薄っぺらな事象になってしまう。それは大変危険なことである。難しいことは難しいままで伝えてほしい。それだから、以前の政治は、大変わかりにくかったのだ。

私たちは、政治の扱う現象がわかりやすいことを期待していない。わかりやすすくないことは、世界のニュースを見ていれはすぐにわかる。

今は亡き井上ひさしは、その文章指南で、「難しいことを易しく」といった。しかしそれにすぐ続けて、「易しいことを深く」といった。深さのない易しさは、愚かしさに過ぎない。

『金田一秀穂のおとなの日本語』(金田一秀穂)

問1 空欄(ア)に入れるものとして、最も適当なものを一つ選びなさい。

1 抽象化 2 適正化 3 言語化 4 明確化 5 合理化 答え()

問2 空欄(イ)には、身体の部分を表す一字の漢字が入れなさい。 答え()

問3 傍線部①「さもありませんという雰囲気」のはなぜか。その理由を説明しなさい。

2023(令和5)年度 愛知大学大学院入学試験

(2022. 8月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 欧米文化専攻	
外国語	
科目名	日本語

採点欄	
-----	--

(辞書の使用不可)

問4 傍線部②「だろう」と③「かもしれない」はそれぞれどのような意味で使われているか。本文に即して説明しなさい。また「に違いない」と置き換えることができるかについても説明しなさい。

問5 傍線部④「重宝される」とはどのような意味か。また別の語で置き換えるとどのような表現になるか、説明しなさい。

問6 傍線部⑤「しかるべき答え」とはどのような意味か説明しなさい。また「しかるべき」を使用した例文を作成しなさい。

問7 本文を400字以内で要約しなさい。(解答は別紙の原稿用紙)

[2] 次の各文の敬語の誤りを正し、全文を書き換えなさい。

① お客様のお使いやすいおすすめ商品になります。

② 書いたレポートは、お手元に届いていらっしゃいますか。

③ A先生に聞いた論文、B先生から借りられました。

④ 先生、失礼ですが、名前を何と言いますか。

⑤ 体調がダメなので、今日の授業お休みします。

入学年度および実施時期	2023年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	欧米文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	日本語
試験実施日	2022年8月31日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

授業内容や研究論文を理解することのできる語彙・文法・敬語についての日本語力が身についているか。日本語の文章を理解し、その要点をまとめることができる力を有しているかを見るために、要約を出題した。研究論文を作成する際に必要な読解力および文章をまとめる力があるかを問う出題である。

また、円滑なコミュニケーションのため、高度な日本語の使用者として必要な敬語についても出題した。

【解答例（採点時の観点）】

〔1〕

問1 3

問2 腹

問3 日本人記者たちは、外国人には理解されない日本人の独特の感性があることが、会場の場では現れることが予測されていたから。

問4 「だろう」は単純な推量を表すし、ここでは筆者が「日本人独特の感性であると思う日本人が多い」と推量しているが、その推量には特に根拠が示されている訳ではない。「かもしれない」も推量であるが、「可能性があるという考え」を述べる表現で、「理解されないことがうれしいかのようだ」について、低いけれどその可能性があることを示している。「に違いない」は確信を表しているが、あまり論理的に考えた結果ではなく、直感的にそう考えた場合に使用される。

問5 「重宝される」はもともと「貴重なものとして扱われる、有用である」という意味で、これが人物に対して使用されると「大切に扱われる。役に立つ人物となる」という意味になる。

問6 「そうあるべき、適切な、ふさわしい答え」という意味で使用されている。

用例 ルール違反に対してはしかるべき対応を取る必要がある。

問7 (略)

〔2〕

- ① お客様のお使いになりやすい、おすすめの商品です。
- ② 提出しましたレポートは、お受け取り下さいましたか。
- ③ A先生にお聞きした論文、B先生が貸して下さいました。
- ④ 先生、失礼ですが、お名前を伺ってよろしいですか。
- ⑤ 体調が良くないので、申し訳ありませんが欠席させていただきます。

2023(令和5)年度 愛知大学大学院入学試験

(2022. 8月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 欧米文化専攻	
専門科目	
科目名	選択(その1)

採点欄	
-----	--

史料を抜きに歴史の研究を進めることはできない。一片の史料からその時代の歴史を復元するのが歴史家の仕事であるといつてよい。次の文書は、ある聖職者によるローマ教皇宛ての書簡からの抜粋である。この書簡は12世紀後半に送付されたことが分かっている。この文書の史料類型について解析した後、その結果を踏まえて、この文書が教皇に何を主張するために記されたかを述べよ。(辞書使用不可。論述の字数制限なし)

Dominus in hoc sancto suo mirabilis est, quem eo magnificentius glorificat quo mirabilius evangelizat. Et ut tantæ majestati non tam temere quam timide, salvo illo singulari primatu tuo qui omnibus præest, loquor, nullo expectato superiore mandato, martyris palmam martyrii gloria mox subsequi debuisset, etsi tyrdom nullum fuisset visibilis signi testimonium.

Adapted from *Materials for the History of Thomas Becket, Archbishop of Canterbury (Canonized by Pope Alexander III, AD 1173)*, edited by James Craigie Robertson, Longman, 1875.

入学年度および実施時期	2023年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	欧米文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	選択（その1）
試験実施日	2022年8月31日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

歴史学の研究方法の基礎を身に付けていることを確認するための出題である。受験生の史料解析能力を確認することが出題の主な目的である。

【解答例（採点時の観点）】

一片の史料に向き合うとき、多様な読解の可能性がある。その可能性の幅は広い。それゆえ採点時の観点のみを解説する。

昨年度の過去問をしっかりと復習していれば容易に解くことのできる出題とした。史料の類型については、この文書の文頭のDominus in hoc sancto（この聖人のなかで主は）という定型表現から聖人崇敬に関する内容であると推測できる。さらに史料集の書名が大きなヒントを与えてくれる。書名からこの文書は教皇アレクサンデル3世によって1173年に列聖されたトマス・ベケットにかかわる史料集(Materials)所収の文書であると推測される。まず列聖を公式に宣言するための列聖教書が想起されるが、それは教皇が発給する文書である。逆に教皇に向けて記された文書ということで列聖請願書ではないかと推測できる。文書中のMartyris paluma（殉教者のパルマ）Martyrii gloria（殉教者の栄光）という語句からこの文書は殉教者崇敬を強調した文書であると推察される。文末のvisiblis signi testimonium（目に見えるしるしの証拠）が一行目のmirabilis（驚異）とほぼ同じ意味で使われている。Nullumという語句から主の「目に見えるしるしがなくとも」換言すれば「奇蹟がなくとも」という否定文であることがわかる。すでにかつての大迫害が終わった中世キリスト教世界では、殉教の数は減少する。その一方で徳行によって証聖者とされる人物は増加する。このような状況に対応して、12世紀の教皇権による列聖は奇蹟重視であったという基礎知識があれば、この文書の主張はそれとは反対の厳格な殉教重視の主張であると読み取ることが出来る。

史料に向き合うとき、多様な読解の可能性があるが生じるが、その多様性は創造力の賜物であり、それこそが歴史学を前進させるための推進力となる。それゆえ多様な読解の可能性を採点の評価基準として積極的に取り入れたい。

2023(令和5)年度 愛知大学大学院入学試験

(2022. 8月実施)

受験
番号

--

修士課程

文学研究科 欧米文化専攻	
専門科目	
科目名	選択 (その2)

採 点 欄	
-------------	--

次の英文を読み、以下の設問に答えよ。

When producers and readers share aspects of the same culture, texts are more easily decoded or understood. However, not every reader is going to take (or make) identical meanings from the same text. Depending upon their own cultural positioning, different people may decode texts in different ways – sometimes minutely different, sometimes greatly so. Readings that decode a text in accordance with how it was encoded are said to be (1)dominant readings. On the other side of the spectrum are (2)oppositional readings, which actively question the ideological assumptions encoded in a text. Most readings lie somewhere in between these two extremes. (3)Negotiated readings resist some aspects of what has been encoded, but accept others. Frequently, members of minority groups have social standpoints that differ from those encoded in mainstream texts, and sometimes this allows such individuals to perform readings that are more regularly negotiated or oppositional.

In most cases, Hollywood filmmakers don't want moviegoers to question the politics of their films. (4)Hollywood promotes its films not as political tracts but as mindless escapism, and an audience member who accepts that tenet will rarely be alert to the cultural and ideological assumptions that the films encode and promote. (One should remember that ideology is often most effective when it goes unnoticed.) The fact that Hollywood films are generally understood as mere entertainment (without political significance) is itself an ideological assumption, (5)one that denies the importance of image studies and therefore represents white patriarchal capitalist film practice as neutral, natural, and inevitable.

Used with permission of John Wiley & Sons, from *America on film: representing race, class, gender, and sexuality at the movies*, by Harry M. Benshoff, Sean Griffin, 2009.

1. (1)~(3)について本文に沿って日本語で説明せよ。

(1)

(2)

(3)

入学年度および実施時期	2023年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	欧米文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	選択（その2）
試験実施日	2022年8月31日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

修士課程の専門の問題については、映画作品をテキストとして映画分析をする場合のテキストの読み方を説明する文を示して、以下のような意図で出題した。

- 問1 テキストの3通りの読み方を説明している問題文の要旨を読み取れるかどうかを確認するための出題。
- 問2 下線部の和訳は英文の意味を正確に理解できるかどうかについて和訳させることで英語の力を測る。
- 問3 問2と同様の和訳であるが、指示語を明示させることで英語の力と同時に文の読み取りの力を確認するための出題。
- 問4 問題文全体を要約させることで、全体の意味が取れているかどうかの確認。
- 問5 抽象的な説明文に沿った具体例を示させることで、問題文の理解度とそれに関連する知識を持っているかどうかを見る。

【解答例（採点時の観点）】

問1は映画作品をテキストとして読む際に3通りの読み方があるという問題文を読んで、その違いが把握できているかどうか注目して採点した。

問2は1文の和訳である。前半はnot as～ but as～の形が正確に読めているかどうか、後半は、主部はan audience member にwhoの関係代名詞節が付いてtenetまでであり、willから述部となる。述部中のthe cultural and ideological assumptionsをそれ以下のthat節が修飾していることを正確に捉えることができているかに注目した。

問3は“one”という語がどの語の言い換えであるかを正確に把握しているかを見た。

問4は問題文を100字程度で要約する問題であるが、問1の3通りの読み方がこの問題文全体の骨子となるように要旨をまとめているかどうかを採点時の観点とした。

問5は暗号化されているテキストの解読方法という抽象的な説明文を読んで具体例を示すことができるだけの知識を持っているかどうかを確認した。

入学年度および実施時期	2023年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	欧米文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	選択（その3）
試験実施日	2022年8月31日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

倫理学を研究、学習する上では、倫理学諸説についての広範な知識が必要とされ、かつ、それについて、自分なりの見方の方向性を一定程度提示する能力があることが求められる。倫理学説は大きく、義務論的諸理論、帰結主義的諸理論、徳倫理的諸理論に分別され、研究を志す者は、それらのうちのいずれかを自分の立場として、それを主に重点的に研究していくことになるのだが、その場合でも、その立場と他の立場を対比するために、他の立場についても、一定程度のことは踏まえておく必要がある。義務論、徳倫理学を重点的に研究する場合でも、帰結主義の近年の動向については、どうしても踏まえておかなければならないものがかなりある。そうした基礎的な知識を持っているのか、また、そうした知識を踏まえたうえで、自分の立場をその観点からとらえることができているのかを、審査する必要がある。それを踏まえての出題である。

【解答例（採点時の観点）】

1980年代の終わりから、規範倫理学説の基本理論の一つである帰結主義は様々な展開を遂げてきた。帰結主義は、行為の正邪を行為の帰結だけから判定する立場としてくくることができるとはできるが、そのようにくくったとしてもその意味は必ずしも明瞭ではなく、現在のところ、帰結主義の統一的な定義は不可能であろうとされ、帰結主義は家族的類縁性をなす理論群をあらわすもので、功利主義に一定の近さを持つものが帰結主義と呼ばれているというのが実情である。

歴史上、帰結主義の中心は功利主義であるものの、現在段階において、基礎規範倫理学の世界では帰結主義陣営の中で功利主義者は少数派であると言える。そして帰結主義の展開は、功利主義からの変遷の展開に重なる。功利主義が配分原理を持たないところから、功利主義的発想に配分の原理として優先主義の考えを組み合わせられることが考え出される。これは、直観との合致の点では都合がよいが、功利主義の利点である、理論の単純性の強みをかなり後退させることになる。さらに、直観との合致という点で言っても、功利主義の問題としてしばしば取り上げられる「臓器事例」「保安官事例」などを考えれば、直観との合致をさらにはかるには、帰結として、殺人が起こることなどを悪として組み込む必要が生じる。こうして、さまざまな誤った行為であると考えられるものを帰結として生じる事態として扱うことによって、帰結主義は、無危害、誠実、親切、等々の、常識道徳で義務と考えられる項目への対応性を持つことになる。一方で、帰結主義の中で、行為の正邪の基準と、行為者の日常的行為指針との関係の問題が論題となっていく。両者を一致させることは、行為帰結主義では、行為のたびに帰結を勘案することを要求することとなり、非現実的であるとともに、規則性を失うという点で道徳的直観との合致にも無理を

きたすだけでなく、そもそも勘案のコストがかかる点で帰結主義の趣旨にも反することになる以上、両者の間の区別を立てることが自然になる。しかし、ここまで述べてきたような諸展開をしてもなお、原理的には、帰結主義は帰結としての世界の状態だけから行為の正邪を判断するため、常識的道德が含む道德の行為者相対性が十分に組み込めない。こうした事情から、行為者相対的価値・ランキングを導入するタイプの帰結主義が生まれることになり、それは、非伝統的帰結主義とも呼ばれ、こうして、義務論の帰結主義化の展開のプログラムの展開が充実化させられていくことになる。こうした非伝統的帰結主義は、伝統的帰結主義陣営の目からは、帰結主義の名に値しないものとして扱われ、このことが、帰結主義の定義の不確定さの一つの重要な要因となっていく。

一方で、規則帰結主義は、「行為帰結主義への瓦解、そうでなければ、内的不整合」のジレンマを抱えると考えられていたが、その状況がフッカーの帰結主義の改善により、大きく変わる。フッカーは規則の順守ではなく受容に焦点を当て、内面化コストに着目することで、規則の単純性を確保し、一方で、規則帰結主義を帰結の善の最大化を決定的眼目とするのではなくむしろ道德についての我々の諸直観を体系的に整理する最も妥当な説として位置づけることにより、内的不整合の問題への解決を試み、これにより、規則帰結主義は、有力な選択肢の一つとして扱われることとなった。

こうした、帰結主義の諸動向について、帰結主義と義務論との関係の問題、修正主義と保守主義の対比の問題、理論の単純性の問題の、三つの観点から考察を加えておきたい。一つ目がとりわけ重要である。

第一に帰結主義と義務論との対比及び関係について。ここまでに見た帰結主義の諸動向において、帰結主義と義務論との境界線がだいぶ曖昧化してきていることは明らかである。行為規則帰結主義が非伝統化し行為者相対性を取り入れるならば、そして、非伝統的行為規則主義が、義務論的理論と、与える答えにおいて外延的同値性を獲得するならば（あるいは獲得に成功するとするならば）、帰結主義が帰結主義であることにどこまで意味があると言えるのかが問題になることも当然と言えるかもしれない。また、フッカーなどの規則帰結主義は、もともと、行為者中心的制約・特権を組み込んでいるものであり、その点で、フッカー自身が認めるように義務論的色彩を持ち、スキャンロン型契約主義とも一定の類縁性を持っている。しかも、フッカーの言うように規則帰結主義が帰結の善の最大化を眼目としないならば、規則自体が帰結の善の最大化を黙して作られるにしても、規則帰結主義自体が帰結主義の名に値するののかという問いかけも重いものになりかねない。こうした諸事情に対する一つの考え方は、義務論と帰結主義との区別自体にはもはや大した重要性がないという立場をとることであろう。問題はむしろ、どの義務論、どの帰結主義が、よいかということなのだのとらえるべきなのかもしれない。また、両者の間の関係が流動化していることは、例えばパーフィットの三重理論が、いわば二階建ての形とはいえ、彼が「カント的契約主義」と呼ぶものと規則帰結主義とを合体したことにも表れていると言えるかもしれない。

帰結主義と義務論との関係をこうした形で考えるうえで、そもそも、この二つが、二つとも、道德の重要な相をそれぞれとらえているということに着目しておくべきであろう。帰結主義が世界の状態を三人称的にとらえることだけに定位しようとするならば、義務の方向性や、道德において他人が他人として重んじられることが、十分に組み込めなくなる。また義務論が帰結を完全に無視することにもそもそも無理があり、threshold deontologyのような立場もかなり不自然な人工的なものに映るし、そもそも道德が我々にとっての諸善との関係抜きに考えられると考えるのも、かなり不自然な話である。このことからするならば、義務論と帰結主義との境界が流動化しているということ自体は好ましいことと考えるのが自然であり、問題は、二つのうちのどちらが正しいかということよりは、むしろ、二つをどのように合体させるかであると考えべきなのではなかろうか。

第二点目は、道徳理論が保守主義的であることは本当に正しいことなのかということにかかわる。この場合の保守主義とは、道徳理論と、常識的道徳観、道徳直観との関係の問題にかかわるものであり、その意味での修正主義と対比されるものとしての保守主義である。行為帰結主義の変遷の経緯はまさに帰結主義を常識的道徳観に合わせるための改善を重ねた結果のものであるとみることにはかなり妥当性があり、その意味で、それは、道徳哲学において、保守主義の傾向が極めて強くなっていることを反映していると言える。もちろん、道徳理論の構築において、道徳的諸直観が少なくとも一つの重要な材料とならざるを得ない以上、常識道徳との対応を無視することはできない。しかし、我々は多くの歴史上の重要な道徳理論家たちがかなり修正主義的であった（少なくとも今日の見れば修正主義的である）ことに留意すべきであろう。もちろん、修正主義的立場が説得力を持つためには、根本的原理についての一定の説得力のある洞察が必要である。これは、義務論と帰結主義の関係を根本的に見直すことによってはかられていくかもしれない。

第三に、理論の単純性と道徳の実態との対応の問題がある。功利主義の単純性は魅力ではあったものの、現在では、それこそがまさに功利主義が懐疑の目にさらされる最も重要な要因になっていると言えるであろう。しかし、そこから変遷した帰結主義の行きついた諸形態、とりわけ、非伝統的帰結主義のそれは、多くの価値を乱立させるかなり複雑なものとなりすぎているように思われる。道徳理論が理論として説得力を持つためには、根本的洞察が必要であり、そのためにも、帰結主義と義務論との関係の根本的見直しが必要とされる時期に入っていると言えるようにも思える。

2023(令和5)年度 愛知大学大学院入学試験

(2022. 8月実施)

受験番号	
------	--

修士課程

文学研究科 欧米文化専攻	
専門科目	
科目名	選択(その4)

採点欄	
-----	--

17世紀から19世紀までの西洋思想において、一般に神学と数学とは共にア
リオリな理性認識と見なされるのが常だった。この時期に活動した人物の中か
ら一人を取り上げ、神学と数学と間の関係について、その人物がどのように考
えたか、説明しなさい。

入学年度および実施時期	2023年度 第1期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	文学研究科
専攻・コース等	欧米文化専攻
入試方式	留学生入試
科目名	選択（その4）
試験実施日	2022年8月31日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

17～19世紀の西洋思想では、神学と数学はいずれもアприオリな理性的学とみなされていた。本問は、この思想史的前提を理解した上で、特定人物（デカルト、ライプニッツ、カントなど）を一人選び、その人物が両者をどのように区別し、また接続しようとしたかを説明できるかを問う。単なる人物紹介ではなく、理性論・認識論・形而上学との連関を整理し、神学的問題が数学的确实性並びに哲学とどのように交差したのかを分析する力を評価する。

【解答例（採点時の観点）】（カントを解答例とする）

カントは、数学と神学について扱う対象の性質によって両者を厳密に区別した。カントによれば、数学は直観形式である空間と時間を基盤とし、構成的に概念を図示できるため、アприオリな総合判断として客観的妥当性を主張しうる。他方、神学は経験を超えた超越的对象（神・魂・世界全体）を扱うため、哲学の一領域たり得るものの、直観を欠くために構成が不可能であるという性質を持つ。ゆえに神学は数学のような客観的妥当性をもつ学にはなり得ず、実践理性の要請との関連においてのみ意味をもつ。

またカントは、数学的認識の構造が理性批判のモデルになり得ると考えた。すなわち、数学が「直観にもとづく構成」によって确实性を得ている機構を出発点に理性認識の構造を分析することで、理性的認識のどこまでが有意味でどこからが超越的すなわち越権となるかを測深したのである。他方、神学的理念は、経験世界を統一的に理解するための「統制的理念」として機能し、自然研究に方向づけを与える点で、間接的に認識を支える。こうしてカントにとって神学と数学は、同じ理性の働きに根ざしつつも、対象の与えられ方の違いによって異なる資格を与えられる学であった。数学は理論理性の中心的モデルとして、神学は実践理性と認識の統制に関わる理念として位置づけられ、両者は理性批判の内部で明確な役割分担を与えられている。